



2024 年 ルール変更 対照表

競泳

変更前	変更後
変更前の内容	新しいカバー写真に差し替え、フッターの改訂日を2024年9月にすること
ドキュメント全体	変更: FINA から世界水泳連盟への言及
適用するルール スペシャルオリンピックス(SO)の競泳公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックス競泳において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際水泳連盟(FINA)のルール(参照: http://www.fina.org/)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスの競泳公式スポーツルールおよびスポーツルール第I章 総則と矛盾する場合以外はFINAあるいは(公財)日本水泳連盟(JSF)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスの競泳公式スポーツルールが適用される。また、環軸椎不安定性との診断を受けたダウン症のアスリートは、バタフライ、個人メドレーへの参加、スタート時の飛び込みが制限される。	変更: スペシャルオリンピックス(SO)の競泳公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックス競泳において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは、世界水泳連盟(World Aquatics)のルール(参照: https://www.worldaquatics.com/)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスの競泳公式スポーツルールおよびスポーツルール第I章 総則と矛盾する場合以外はWorld Aquaticsあるいは(公財)日本水泳連盟(JAQUA)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスの競泳公式スポーツルールが適用される。また、環軸椎不安定性との診断を受けたダウン症のアスリートは、バタフライ、個人メドレーへの参加、スタート時の飛び込みが制限される。
3. 競技ルール 競技会における技術的なルールについては、国際水泳連盟(FINA)のルールに記載されている http://www.fina.org/ 。スペシャルオリンピックスの各国プログラムはそれぞれの国内の水泳競技連盟のルールに代替してもよい。FINAのルールは、全ての国際的な競技会で適用される。これらルールに関する例外は、以下に記載されている。	変更: 競技会における技術的なルールについては、世界水泳連盟(World Aquatics)のルールに記載されている https://www.worldaquatics.com/ 。スペシャルオリンピックスの各国プログラムはそれぞれの国内の水泳競技連盟のルールに代替してもよい。World Aquaticsのルールは、全ての国際的な競技会で適用される。これらルールに関する例外は、以下に記載されている。
3.1.3 すべての種目において、可能な場合、競技役員(審判長、計時員、審判員を含む)は、認定を受けた者で構成すべきである。	3.1.3 すべての種目において、各運営団体によって認定を受けた十分な人数の競技役員(審判長、計時員、審判員を含む)で構成すべきである。



<p>3.1.5 競技者は、速力・浮力または持久力を助長するような器具（たとえば、アクアグローブ、パドル、フィンなど）を使用、着用してはならない（ただし、浮き具使用レースを除く）。ゴーグルは着用してもよい。</p> <p>3.1.6 要請に応じて、泳者が水から上がる手助けをしてもよい。</p> <p>3.1.7 要請に応じて、泳者が水から上がる手助けをしてもよい。スタートはスタート台、スタート台横、あるいは水中から行う。水中から行う場合のスタートは、アスリートは片方の手をプールのヘリに置か、片方の手でスタート台をつかまなくてはならない。背泳ぎの場合には両方の手で行う</p>	<p>変更:3.1.5 競技者は、速力・浮力または持久力を助長するような器具や水着（たとえば、アクアグローブ、パドル、フィン、パワーバンド、粘着性物質など）を使用、着用してはならない（ただし、浮き具使用レースを除く）。ゴーグルは着用してもよい。技術および自動化されたデータ収集装置の使用は、データ収集のみを目的として許される。自動化された装置は、スイマーにデータ、音、信号を送信するために使用してはならず、またスピードを補助するために使用してはならない。ゴーグルは着用してもよい。</p> <p>3.1.5.1 傷害の結果として、1本または2本以上の指または足の指にテープを貼ることは許されない。審判員またはその他の指定された者が承認しない限り、身体に他の種類のテープを貼ることは許されない。</p> <p>3.1.6 要請に応じて、泳者が水から上がる手助けをしてもよい。</p> <p>3.1.7 スタートはスタート台、スタート台横、あるいは水中から行う。水中から行う場合のスタートは、アスリートは片方の手をプールのヘリに置か、片方の手でスタート台をつかまなくてはならない。背泳ぎの場合には両方の手で行う</p> <p>3.1.8 てんかんの泳者が念のため発作に備えてライフガードに警戒を知らせる道具を着用することを許可するものとする。</p>
	<p>追加: 3.2.5 世界水泳連盟（WORLD AQUATICS）の規則に従い、プールの底にレーンラインを表示することが推奨される。</p>
	<p>削除: 3.4.1.4 てんかんの泳者が念のため発作に備えてライフガードに警戒を知らせる道具を着用することを許可するものとする。</p>
	<p>追加: 3.4.1.2.4 浮き具は、指定された基本種目においてのみ許可される。</p>
<p>3.5.3 競技会責任者はコーチがこれらの競技において口頭での激励もしくはプールサイドから指示することを許可してもよい。</p>	<p>変更: 3.4.2.2 競技会責任者はコーチがこれらの競技において口頭での激励もしくはプールサイドから指示することを許可してもよい。</p>



<p>3.5 ユニファイド・スポーツ・リレー競技</p> <p>3.5.1 ユニファイドスポーツ®のリレーチームは、アスリート2名とパートナー2名で構成する。</p>	<p>追加/変更:</p> <p>3.5.1 ユニファイドスポーツ®のリレーチームは、アスリート2名とパートナー2名で構成する。</p> <p>3.5.2 アスリートとユニファイド・パートナーは、同程度の年齢でなくてはならない。また、アスリートとユニファイド・パートナーは、同程度の競技能力が望ましい。同程度の年齢と能力に関する詳細はスポーツルール総則第1章14.1.2項を参照のこと。</p>
<p>3.9 マーキング</p> <p>3.9.1 競技中、すべての泳者は個人ビブナンバーを使用することによって確認される。このナンバーはいつでも識別可能な両腕の上部に垂直に記される。すべてのビブナンバーは40mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。</p> <p>競技中、泳法例外コードは泳者の腕で確認される。このコードはいつでも識別可能な、両腕の上部のビブナンバーより下に垂直に記される。泳法例外コードは40mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。泳法例外コードは、泳者がスタートや文化上、健康上あるいは安全上の理由で正しい競泳ルールに従うことができない場合に使用される。</p>	<p>変更:</p> <p>3.7 マーキング</p> <p>3.7.1 競技中、すべての泳者は個人ビブナンバーを使用することによって確認される。このナンバーはいつでも識別可能な両腕の上部に垂直に記される。すべてのビブナンバーは40mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。</p> <p>3.7.2 競技中、泳法例外コードは泳者の腕で確認される。このコードはいつでも識別可能な、両腕の上部のビブナンバーより下に垂直に記される。泳法例外コードは40mm以内、かつ、油性マーカーペンで書かれなくてはならない。泳法例外コードは、泳者がスタートや文化上、健康上あるいは安全上の理由で正しい競泳ルールに従うことができない場合に使用される。</p> <p>3.7.3 例外コードのリストは以下の通り： A= プールサイドで、聴覚障害者、視覚障害者、サポートや指導を行うアシスタントが必要。 B= スターティングブロックに座ってスタート C= コンコースに座ってスタート E= 背泳ぎでハンドルが握れない H= ストロボライトを必要とする聴覚障害者。 L= スイマーは医療上、信頼上の理由からサイドレインにいる必要がある。 S= コンコースでのスタンディングスタート T= タッパーを使用する視覚障害のあるスイマーに必要なアシスタント U= 医療的、文化的、宗教的、慎重さなどの理由による水着の例外。 W= ウォータースタート Z= 医療用アラート</p>
<p>4.1.1 競技会責任者の役割</p> <p>4.1.1.1 S0 競泳のトレーニングや競技会では、ヘッドコーチ、または競技会責任者が全般的な責任を持つ。</p>	<p>変更:</p> <p>4.1 競技会責任者</p> <p>4.1.1 競技会責任者の役割</p> <p>4.1.1.1 競技会責任者は、S0 競泳の練習、ウォーミ</p>



<p>4.1.1.2 S0 のトレーニングや競技会に先立ち、全ての競泳要員を対象とした研修を実施する。</p> <p>4.1.1.3 到着前に、設備管理者と設備の調整を行う。</p> <p>4.1.1.4 必要とされる監督者を必ず確保する。</p> <p>4.1.1.5 「セクション5：安全対策」に記載されている緊急時マニュアルの準備、または確認をしておく。</p>	<p>ングアップ、クールダウン、競技運営に関する全般的な責任を持つ。</p> <p>4.1.1.2 S0 のトレーニングや競技会に先立ち、全ての競泳要員を対象とした研修を実施する。</p> <p>4.1.1.3 到着前に、設備管理者と設備の調整を行う。</p> <p>4.1.1.4 必要とされる監督者を必ず確保する。</p> <p>4.1.1.5 緊急時マニュアルの準備、または確認をしておく。</p>
<p>5.1.3 競技会実行委員長は、各活動や競技会を行う前に、緊急時マニュアルに目を通す。FINA、または日本水泳連盟（JAQUA）のガイドラインに見合う人数のコーチがいなければならない。</p>	<p>移動：</p> <p>5.1.12 競技会実行委員長は、各活動や競技会を行う前に、緊急時マニュアルに目を通す。</p>
	<p>削除：</p> <p>5.2.7 屋外の水泳（オープンウォータースイミング）の場合、気象情報の入手手順</p>